

『就実論叢』第44号 抜刷

就実大学・就実短期大学 2015年2月28日 発行

保育所内の植物を活用した食育に関する実態調査

Questionnaire survey on the food education utilized the plant
in the nursery school

畦 五 月
畦 浩 二
山 根 薫 子

保育所内の植物を活用した食育に関する実態調査

Questionnaire survey on the food education utilized the plant
in the nursery school

畦 五 月
畦 浩 二 (大阪教育大学)
山 根 薫 子

UNE Satsuki

UNE Kouji

YAMANE Shigeko

要約

- ①岡山市内公立保育所全52園と大阪市内公立保育所全80園を対象に、園内の植物（草本、樹木、野菜、稲作）を活用した食育についてのアンケート調査を行い、岡山90%、大阪91%の回収率を得た。
- ②「食育」を保育所のカリキュラムに岡山は73%が、大阪はすべての園が位置づけを行っていた。
- ③両地域とも園内の植物を「食育」に活用していた。その活用している植物は、野菜を活用している園が最も多く（岡山：98%、大阪：100%）、次いで稲作（岡山：22%、大阪：44%）、樹木（岡山：17%、大阪：23%）、草本（岡山：12%、大阪：1%）の順であった。
- ④食育計画の作成において地域ごとに差が見られた。しかし両地域ともに、食育のねらい、菜園活動、保護者との連携、献立作成などの各種の観点から、園の独自性を提示しながら活動計画を作成している特徴が見られた。

はじめに

平成17年度に「食育基本法」が制定された。この法では、食育に関する施策を総合的かつ計画的に推進し、現在あるいは将来にわたる健康で文化的な国民の生活と豊かで活力のある社会の実現に寄与することを目指している¹⁾。この法に基づいて内閣府は食育推進基本計画²⁾を作成し、平成23年度から5か年計画で新たな食育の推進に当たっての目標値を掲げるとともに、食育の総合的な推進に関する事項として取り組むべき施策等を提示している。その施策の柱の1つとして、生涯にわたるライフステージに応じた間断ない食育の推進を掲げている。また、その中で「学校、保育所における食育の推進」を定めている。

保育所は園児が1日の生活時間の大半を過ごすところであり、保育所における食事の意義

は大きいとされる。食事は空腹を満たすだけでなく、人間的な信頼関係の基礎をつくる営みでもある。「子どもが身近な大人からの援助を受けながら、他の子どもとの関わりを通して、豊かな食の体験を積み重ね、楽しく食べる体験を通して、食への関心を育み、食を営む力の基礎を培う『食育』を実践していくことが重要である」と「保育所における食育に関する指針」³⁾(平成16年3月29日雇児保発第0329001号)は述べている。つまり、食育を実施する初期過程の「食を営む力」の基礎を培う、つまり支援を行う重要な時期として保育所を位置づけている。

これらの状況を受けて、『保育所保育指針』⁴⁾(2008年3月)が制定され、その第5章「健康及び安全」3項に食育の推進を設定している。その項は大きく以下の4項目から構成されている。①・・・(中略) 食べることを楽しみ、食事を楽しみ合う子どもにも成長していくことを期待する ②・・・(中略) 適切な援助が行われるよう・・・(中略)・・・食育計画を作成する ③・・・(中略) 感覚や体験を通して、自然の恵みとしての食材や調理する人への感謝の気持ちが育つように・・・(中略) ④・・・(中略) 子どもの心身の状態に応じて・・・(中略)・・・適切に対応する。

本報告では特に上記の②、③の項目に注目し、保育所の食育がどのように実施されているのかを知るために、園内の植物を活用しての食育の実態状況を中規模都市の岡山市と大規模都市の大阪市の比較において明らかにすることを目的とした。

方法

保育所内の植物とそれを教材に活用した食育に関するアンケートを平成25年10月に岡山市内公立保育所(以下岡山と略記)全52園と、大阪市内公立保育所(以下大阪と略記)全80園に郵送にて送り、1ヶ月以内をめぐりに郵送あるいはFaxでの返送をお願いした。データは数値あるいはデータとして処理し、園名は出さないことを書面にて明示した。

調査内容

①園の所在地 ②アンケート回答者の勤続年数 ③役職 ④園の規模(各学年園児数および総園児数) ⑤保育所保育指針に沿ったカリキュラムの有無 ⑥食育の取り組みを保育計画に位置づけているかどうか ⑦園内の草本あるいは樹木と食育との関連 ⑧園内外で栽培している野菜と食育との関連 ⑨園内外の田における稲の栽培と食育との関連を、記述あるいは選択肢より選択する方法で行った。アンケートとは別に各園における「食育」の教育状況がわかる資料の提出を任意をお願いした。

結果と考察

1. 回収率と属性

岡山市内公立保育所全52園、大阪市内公立保育所全80園にアンケートをお願いし、その回

取率は岡山47園（90%）、大阪73園（91%）であった。回答者の役職と勤続年数を図1-1、図1-2に示す。岡山と大阪では回答者の役職に相違があり、岡山は約50%が所（園）長、約30%が副所（園）長、これら以外は統括主任保育士が記述していた。対して大阪では、ほぼすべての園（約93%）で所（園）長が回答しており、副所（園）長や統括主任保育士などの記述は少数であった。

回答者の勤続年数は、岡山と大阪でほぼ共通しており、勤続年数30～40年が約80%と最多であり、次いで30年未満が10%強を占めた。

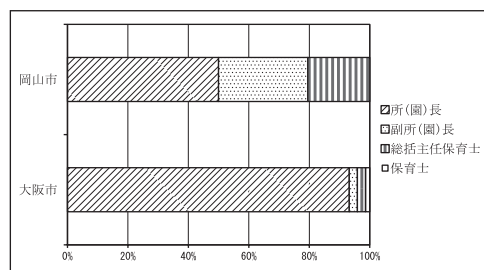


図1-1 アンケート記入者の役職

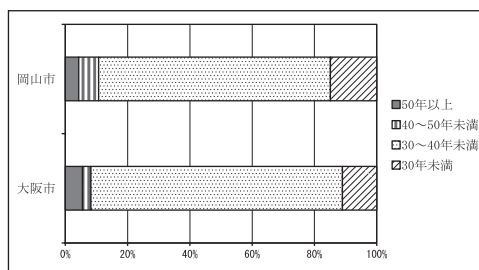


図1-2 アンケート記入者の勤続年数

2. 園児数

園児数を図2に示した。園児数は、岡山が最小15人から最多244人、大阪が最小19人から最多215人であった。園を大・中・小規模保育所に分類し、両地域の平均園児数（108人）を基準として、偏差値±5で示した。岡山では小規模園34%、中規模園58%、大規模園22%に対して、大阪は小規模園30%、中規模園32%、大規模園38%の割合であった。岡山は中規模園の割合が高いのに対して、大阪は大規模園の割合が高い傾向を示した。

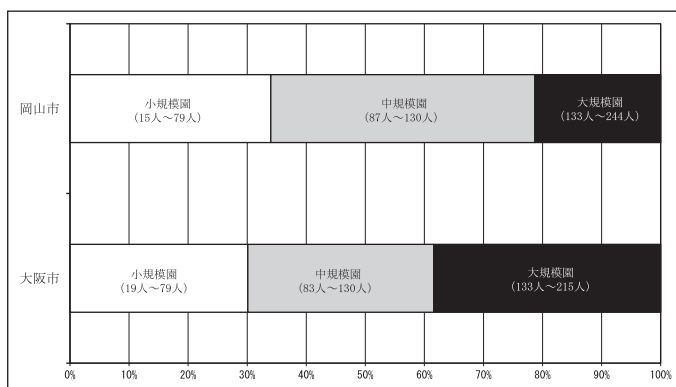


図2 調査園の規模

大規模園は、平均園児数108人を偏差値50としたとき、その値が55より大きい園を示す。
 中規模園は、平均園児数108人を偏差値50としたとき、その値が50±5の園を示す。
 小規模園は、平均園児数108人を偏差値50としたとき、その値が45より小さい園を示す。

3. 保育所保育指針に沿ったカリキュラムの実施状況

保育所保育指針に沿ったカリキュラムによる保育は、岡山と大阪のすべての園で進めてい

た。しかし、「食育」を保育所のカリキュラムに位置づけている園が、岡山は73%（38園）であったのに対して、大阪はすべての園が位置づけていた。

岡山市は、平成25年度からの『食育推進計画』⁵⁾において、食育年次計画を各園に実情に応じて定めるように提示しているのみである。対して大阪市は、平成18年から5年間の『食育推進計画』⁶⁾を定め、調査した平成25年現在は平成23年度からの『第2次食育推進計画』⁷⁾を実施期間中である。その計画の中で、「公立保育所全園において保育所の実情に応じて食育年次計画を策定し、保育計画の中に位置づける」ように規定されている。その結果として、岡山と大阪の間で実施率に差があると考えられる。

4. 園内の草本と食育との関連

アンケートでは、市街地でよく見かける草本(11種類)と樹木(12種類)について、園内での生育の有無とそれらを活用した「食育」教育の有無を調査した。

その結果、両地域で草本が自生していた園の割合は、それぞれ73%と59%であった(図3-1)。大阪の保育所の中には、「草本が自生する場所自体がない」と回答した園が幾らかあった。

草本11種類の自生率を図3-2に示す。岡山ではナズナ、ツクシ、シロツメクサが25%以上の園で自生しており、他にススキやツクシも15%程度の園で見られた。例示されている以外の草本があると回答した園も32%あった。対して大阪では、草本11種類のうち自生率が25%を越えていたのはシロツメクサのみであった。岡山で25%以上の自生率を示したナズナとヨモギは大阪での自生率が15%以下と低く、また岡山で15%程度の園で見られたススキとツクシは、大阪の園にはまったく自生していなかった。これらのことから、大阪においては園内に草本は自生しているものの(58%)、園内に自生している草本の種類が限られていると推察される。

これらの草本を活用した「食育」を実施している園は非常に少なく、岡山は全体の園のうち12%（8園、草本ありと答えた園の21%に相当）、大阪は1%（草本ありと答えた園の4%に相当）であった。回答では記述式で具体的な食育と関連した活動内容の記述を求めたが、具体的に草本の名称とその活動を記述した園は少なかった。

比較的岡山で具体的な活動についての詳細な記述が多く、例えばヨモギは汁を使いままごと遊び、クローバー（シロツメクサ）は花摘み、ミントはにおいを嗅ぐなどを食育に取り入

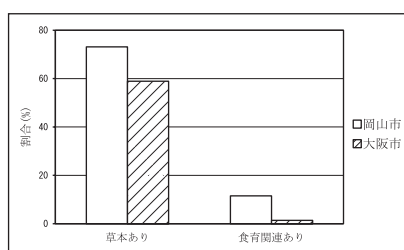


図3-1 園内に自生している草本の有無と食育との関連性

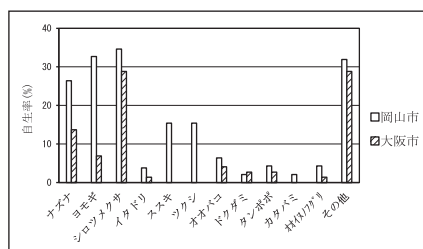


図3-2 園内に自生している草本の種類と自生率

れている回答が得られた。岡山ではままごと遊びと食育を関連付けながら行っている様子が見え、うかがえた。対して大阪では、提示例が2件（レンゲの種まき、ムカゴ採りとジネンジョ掘り）と少なく、園内に自生している草本が食育に余り取り入れられていないと推察される。

そこで、次に園内に自生している草本の種類と食育との関連をカイ二乗検定にて調べた(表1)。その結果、両地域では食育に関連する植物が相違した。11種類の草本のうち、岡山ではナズナ、ツクシの2種類が有意に食育と関連したが、大阪ではこれらの植物と有意な差は見られなかった。

表1 園内に自生している草本と食育との関連

| 岡山市 | | | | 大阪市 | | | |
|----------|--------|-----|----------|--------|-----|--|--|
| 草本名 | p 値 | 有意差 | 草本名 | p 値 | 有意差 | | |
| ナズナ | 0.0344 | ** | ナズナ | 0.6883 | | | |
| ヨモギ | 0.4503 | | ヨモギ | 0.7848 | | | |
| シロツメクサ | 0.5278 | | シロツメクサ | 0.1131 | | | |
| イタドリ | 0.5803 | | イタドリ | 0.9055 | | | |
| ススキ | 0.2726 | | ススキ | — | | | |
| ツクシ | 0.0398 | ** | ツクシ | — | | | |
| オオバコ | 0.7059 | | オオバコ | — | | | |
| ドクダミ | 0.8313 | | ドクダミ | — | | | |
| タンポポ | 0.6180 | | タンポポ | — | | | |
| カタバミ | 0.8313 | | カタバミ | — | | | |
| オオイヌノフグリ | 0.7606 | | オオイヌノフグリ | — | | | |

カイ二乗検定
** : p<0.05, * : p<0.1

5. 園内の樹木と食育との関連

両地域とも約9割の園に何等かの樹木が植栽されていた(図4-1)。そのうち、アンケートに例示した12種類の樹木のうち岡山では、クワ、モミジ、サクラ、イチヨウが20%を越える植栽率であった。対して大阪での植栽率が20%を越えた樹木は、サクラ、モミジの2種類のみであった(図4-2)。

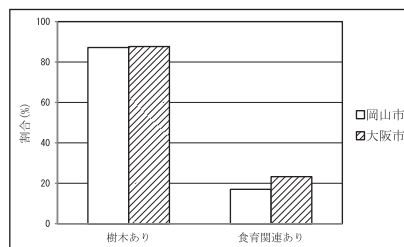


図4-1 園内に植栽されている樹木の有無と食育との関連性

岡山で植栽率が20%以上を超えていたクワは、大阪で植栽されている園はなかった。

また、それらの樹木を活用して食育を行う割合は、岡山17%、大阪23%であった。この割合は、両地域とも園内に自生している草本を活用して食育を行う割合よりも高かった。

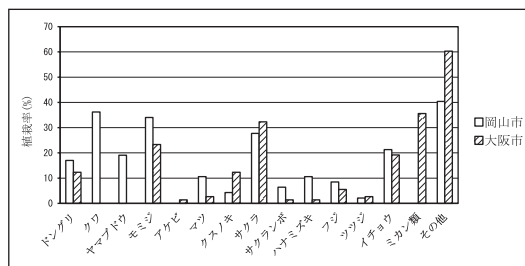


図4-2 園内に植栽されている樹木の種類と植栽率

樹木のうち有意に食育と関連していた樹木は、岡山ではヤマブドウ(ブドウを

含む)、クスノキ、ハナミズキであり、大阪ではドングリ、サクランボであった(表2)。食育と関連する樹木の種類においても、園内の草本の場合と同様に地域間の特性が見られた。

含む)、クスノキ、ハナミズキであり、大阪ではドングリ、サクランボであった(表2)。食育と関連する樹木の種類においても、園内の草本の場合と同様に地域間の特性が見られた。

表2 園内に植栽されている樹木と食育との関連

| 岡山市 | | | 大阪市 | | |
|-------|--------|-----|-------|--------|-----|
| 樹木名 | p 値 | 有意差 | 樹木名 | p 値 | 有意差 |
| ドングリ | 0.6571 | | ドングリ | 0.0073 | ** |
| クワ | 0.6899 | | クワ | - | |
| ヤマブドウ | 0.0030 | ** | ヤマブドウ | 0.9055 | |
| モミジ | 0.3813 | | モミジ | 0.5790 | |
| アケビ | - | | アケビ | 0.9055 | |
| マツ | 0.3301 | | マツ | 0.8658 | |
| クス | 0.0650 | * | クス | 0.9356 | |
| サクラ | 0.5140 | | サクラ | 0.4918 | |
| サクランボ | 0.1876 | | サクランボ | 0.0678 | * |
| ハナミズキ | 0.0243 | * | ハナミズキ | 0.5790 | |
| フジ | 0.4706 | | フジ | 0.2570 | |
| ツツジ | 0.7273 | | ツツジ | 0.4295 | |
| イチヨウ | - | | イチヨウ | 0.5888 | |

カイ二乗検定
** : p<0.05, * : p<0.1

樹木と食育の具体的な記述は、岡山では10例が見られた。それらは、ままごと遊び（ドングリ、キウイ、ヤマブドウ、サクランボ）、食用（キウイ、ブドウ）、蚕飼育（クワ）、花見（サクラ）である。対して大阪では、ままごと遊び（ナンテンの実）、食用（ビワ、サクランボ、カキ）、飼育（キンカン：アゲハ、ミカン）が見られた。サクラに関しては、岡山と同様に花見をしながら桜餅を食べるとの記述が見られた。

両地域とも、果実の実る樹木、例えば岡山ではキウイ、ユスラウメ、ブドウ、大阪ではカキ、ビワ、ミカン類などが園内に植栽されており、これらを食育の教材として活用することで、地域の特性に応じた食に関する理解を深める保育につながると推察される。

6. 園での畑の有無と栽培する野菜

畑の有無と栽培されている野菜の種類及び栽培率を図5-1、図5-2、表3に示す。両調査地域での畑の有無の状況は、両地域では少し異なる（重複回答可）。園内畑の所有率は岡山で77%、大阪で89%と両地域とも高い状況を示した。一方、園外畑の「ある園」が岡山で26%に

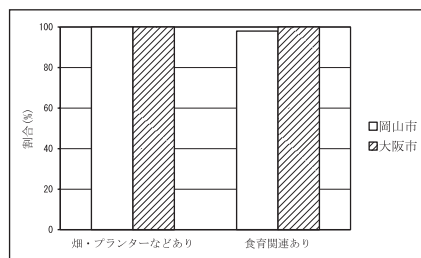


図5-1 畑の有無と食育の関連性

対して、大阪は0%であり、園外畑の所有において両地域間で大きな差が見られた。この違いは、両地域の土地事情を反映していると考えられる。さらに岡山で園外畑のある園は、畑を借りることで、その地域を巻き込み、地域の理解と協力を得ながらの食育を実施していると言える。「その他」のプランターなどの栽培は、岡山38%、大阪48%であり、両地域で比較的類似した傾向を示した。

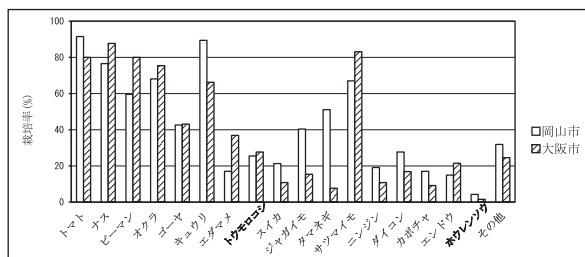


図5-2 園内で栽培されている野菜の種類と栽培率
園内、園外畑、その他(プランター・鉢)などに栽培された野菜

表3-1 園内に栽培されている野菜と食育との関連（岡山市）

| 園内畑 | | | | | 園外畑 | | | | |
|-------------|------|--------|-----|----------------------|---------|--------|--------|-----|----------------------|
| 野菜名 | 畑の有無 | p 値 | 有意差 | 36園 (77%) 植栽率 (%) | 野菜名 | 園外畑の有無 | p 値 | 有意差 | 12園 (26%) 植栽率 (%) |
| トマト | ○ | 0.1890 | | 100 | トマト | ○ | 0.9797 | | 100 |
| ナス | ○ | 0.7292 | | 100 | ナス | ○ | 0.8797 | | 58 |
| ピーマン | ○ | 0.6978 | | 72 | ピーマン | ○ | 0.5618 | | 67 |
| オクラ | ○ | 0.7059 | | 89 | オクラ | ○ | 0.5515 | | 75 |
| ゴーヤ | ○ | 0.0618 | * | 56 | ゴーヤ | ○ | 0.4541 | | 42 |
| キュウリ | ○ | 0.8492 | | 100 | キュウリ | ○ | 0.1660 | | 83 |
| エダマメ | ○ | 0.3013 | | 22 | エダマメ | ○ | 0.9698 | | 8 |
| トウモロコシ | ○ | 0.0117 | ** | 33 | トウモロコシ | ○ | 0.4144 | | 17 |
| スイカ | ○ | 0.7744 | | 28 | スイカ | ○ | 0.2370 | | 25 |
| ジャガイモ | ○ | 0.7538 | | 53 | ジャガイモ | ○ | 0.4335 | | 67 |
| タマネギ | ○ | 0.0713 | * | 67 | タマネギ | ○ | 0.5594 | | 58 |
| サツマイモ | ○ | 0.1011 | | 86 | サツマイモ | ○ | 0.0294 | ** | 83 |
| ニンジン | ○ | 0.3327 | | 25 | ニンジン | ○ | 0.2698 | | 33 |
| ダイコン | ○ | 0.1157 | | 36 | ダイコン | ○ | 0.8114 | | 50 |
| カボチャ | ○ | 0.9068 | | 22 | カボチャ | ○ | 0.9698 | | 17 |
| エンドウ | ○ | 0.7263 | | 19 | エンドウ | ○ | 0.0376 | ** | 17 |
| ホウレンソウ | ○ | 0.4243 | | 6 | ホウレンソウ | ○ | 0.3974 | | 8 |
| 上記以外の野菜 | ○ | | | 42 | 上記以外の野菜 | ○ | | | 25 |
| 園内外畑以外（その他） | | | | | | | | | |
| 野菜名 | 畑の有無 | p 値 | 有意差 | 18園 (38%) 植栽率 (%) | 野菜名 | 園外畑の有無 | p 値 | 有意差 | 0園 (0%) 植栽率 (%) |
| トマト | × | 0.5673 | | 100 | トマト | - | | | 0 |
| ナス | × | 0.8801 | | 100 | ナス | - | | | 0 |
| ピーマン | × | 0.4351 | | 100 | ピーマン | - | | | 0 |
| オクラ | × | 0.6317 | | 100 | オクラ | - | | | 0 |
| ゴーヤ | × | 0.4159 | | 100 | ゴーヤ | - | | | 0 |
| キュウリ | × | 0.3733 | | 100 | キュウリ | - | | | 0 |
| エダマメ | × | 0.1221 | | 44 | エダマメ | - | | | 0 |
| トウモロコシ | × | 0.7809 | | 67 | トウモロコシ | - | | | 0 |
| スイカ | × | 0.9007 | | 56 | スイカ | - | | | 0 |
| ジャガイモ | × | 0.0451 | ** | 100 | ジャガイモ | - | | | 0 |
| タマネギ | × | 0.1884 | | 100 | タマネギ | - | | | 0 |
| サツマイモ | × | 0.4752 | | 100 | サツマイモ | - | | | 0 |
| ニンジン | × | 0.2699 | | 50 | ニンジン | - | | | 0 |
| ダイコン | × | 0.0457 | ** | 72 | ダイコン | - | | | 0 |
| カボチャ | × | 0.3957 | | 44 | カボチャ | - | | | 0 |
| エンドウ | × | 0.5661 | | 39 | エンドウ | - | | | 0 |
| ホウレンソウ | × | 0.2548 | | 11 | ホウレンソウ | - | | | 0 |
| 上記以外の野菜 | | | | 83 | 上記以外の野菜 | - | | | 0 |

×はプランターや鉢植えを指す
** : p<0.05, * : p<0.1

表3-2 園内に栽培されている野菜と食育との関連（大阪市）

| 園内畑 | | | | | 園外畑 | | | | |
|-------------|------|--------|-----|----------------------|---------|--------|-----|-----|--------------------|
| 野菜名 | 畑の有無 | p 値 | 有意差 | 65園 (89%) 植栽率 (%) | 野菜名 | 園外畑の有無 | p 値 | 有意差 | 0園 (0%) 植栽率 (%) |
| トマト | ○ | 0.2814 | | 80 | トマト | - | | | 0 |
| ナス | ○ | 0.2589 | | 88 | ナス | - | | | 0 |
| ピーマン | ○ | 0.2814 | | 80 | ピーマン | - | | | 0 |
| オクラ | ○ | 0.2748 | | 75 | オクラ | - | | | 0 |
| ゴーヤ | ○ | 0.9579 | | 43 | ゴーヤ | - | | | 0 |
| キュウリ | ○ | 0.8266 | | 66 | キュウリ | - | | | 0 |
| エダマメ | ○ | 0.1935 | | 37 | エダマメ | - | | | 0 |
| トウモロコシ | ○ | 0.8720 | | 28 | トウモロコシ | - | | | 0 |
| スイカ | ○ | 0.7670 | | 11 | スイカ | - | | | 0 |
| ジャガイモ | ○ | 0.9168 | | 15 | ジャガイモ | - | | | 0 |
| タマネギ | ○ | 0.4163 | | 8 | タマネギ | - | | | 0 |
| サツマイモ | ○ | 0.1015 | | 83 | サツマイモ | - | | | 0 |
| ニンジン | ○ | 0.7670 | | 11 | ニンジン | - | | | 0 |
| ダイコン | ○ | 0.4053 | | 17 | ダイコン | - | | | 0 |
| カボチャ | ○ | 0.0670 | * | 9 | カボチャ | - | | | 0 |
| エンドウ | ○ | 0.6111 | | 22 | エンドウ | - | | | 0 |
| ホウレンソウ | ○ | 0.7239 | | 2 | ホウレンソウ | - | | | 0 |
| 上記以外の野菜 | ○ | | | 24.6 | 上記以外の野菜 | - | | | 0 |
| 園内外畑以外（その他） | | | | | | | | | |
| 野菜名 | 畑の有無 | p 値 | 有意差 | 35園 (48%) 植栽率 (%) | 野菜名 | 園外畑の有無 | p 値 | 有意差 | 0園 (0%) 植栽率 (%) |
| トマト | × | 0.0352 | ** | 100 | トマト | - | | | 0 |
| ナス | × | 0.8523 | | 100 | ナス | - | | | 0 |
| ピーマン | × | 0.0087 | ** | 100 | ピーマン | - | | | 0 |
| オクラ | × | 0.2137 | | 100 | オクラ | - | | | 0 |
| ゴーヤ | × | 0.8379 | | 80 | ゴーヤ | - | | | 0 |
| キュウリ | × | 0.2564 | * | 100 | キュウリ | - | | | 0 |
| エダマメ | × | 0.0815 | | 69 | エダマメ | - | | | 0 |
| トウモロコシ | × | 0.4586 | | 57 | トウモロコシ | - | | | 0 |
| スイカ | × | 0.7769 | | 20 | スイカ | - | | | 0 |
| ジャガイモ | × | 0.5883 | | 29 | ジャガイモ | - | | | 0 |
| タマネギ | × | 0.1950 | | 14 | タマネギ | - | | | 0 |
| サツマイモ | × | 0.6345 | | 100 | サツマイモ | - | | | 0 |
| ニンジン | × | 0.7769 | | 20 | ニンジン | - | | | 0 |
| ダイコン | × | 0.8576 | | 31 | ダイコン | - | | | 0 |
| カボチャ | × | 0.9162 | | 17 | カボチャ | - | | | 0 |
| エンドウ | × | 0.8641 | | 40 | エンドウ | - | | | 0 |
| ホウレンソウ | × | 0.3339 | | 3 | ホウレンソウ | - | | | 0 |
| 上記以外の野菜 | | | | 71 | 上記以外の野菜 | - | | | 0 |

×はプランターや鉢植えを指す
** : p<0.05, * : p<0.1

園内外の畑やプランターなどで栽培されている野菜の種類は、岡山ではトマト(92%)>キュウリ(89%)>ナス(77%)>サツマイモ(67%)の順に、大阪ではナス(88%)>サツマイモ(83%)>トマト=ピーマン(80%)の順によく植えられており、栽培率の高い野菜の種類は両地域間で余り変わらなかった。しかし、岡山で栽培率が40%~51%と比較的高いジャガイモ、タマネギが、大阪では15%~8%と余り栽培されていないこと、及び大阪で37%と比較的よく栽培されているエダマメが、岡山では17%と余り栽培されていないことから、栽培されている野菜に地域による特性があることもうかがえた。

次に、栽培されている野菜の種類を園内畑・園外畑・プランターなどに分けて比較すると、両地域で栽培されている野菜の種類が若干異なっていた。岡山の園内畑ではトマト、キュウリ、ナスが全園で栽培されており、園外畑ではトマトを、プランターなどではトマト、ナス、ピーマン、ゴーヤ、キュウリ、オクラの6種類が植えられていた。対して大阪では、園内畑で高い割合で栽培されていた野菜はあるものの、全園が共通に栽培していた野菜は見られなかった。

栽培されている17種類の野菜のうち食育と関連しているものは、岡山の園内畑ではゴーヤ、トウモロコシ、タマネギであり、園外畑ではサツマイモ、エンドウであり、プランターなどではジャガイモ、ダイコンであった。一方、大阪では園内畑ではダイコンであり、プランターなどではトマト、ピーマン、エダマメであったが、園外畑では該当した野菜はなかった。このように食育に関連した野菜の種類が多くは岡山と大阪では異なっていた。園内に植栽されている樹木の場合と同様に、園で栽培されている野菜を食育の教材として活用することで、地域の特性に応じた食に関する理解を深める教育につながると推察される。

7. 園での稲の栽培と食育

園での米の栽培状況を表4-1に示す。岡山では田で稲を栽培している園が2園(4%)あり、その他(バケツに稲を植える)が8園(17%)あった。対して大阪では、園に田がある園はなかったものの、半数の園(53%、39園)でその他の回答があり、大阪ではバケツなどを使って米作りを園児に体験させている様子が見えたとうかがえた。

表4-1 田の有無と食育との関連性

| | 園数 (%) | | | |
|-----|--------|--------|---------|---------|
| | 田有り | 園外で借りる | その他 | 田なし |
| 岡山市 | 2 (4) | 0 (0) | 8 (17) | 37 (79) |
| 大阪市 | 0 (0) | 0 (0) | 39 (53) | 34 (47) |

稲の栽培活動内容を表4-2に示した。岡山では稲刈り、脱穀、炊飯など、特に稲作の後半の過程を多くの園児が体験していた。対して大阪では、稲作の最初の段階のみ蒔きから始まり、田植え、草取り、稲刈り、脱穀、炊飯という稲作における一連の過程全体を長期間にわたって体験させていた。

表4-2 田での農作業と食育との関連

| 岡山市 | 園数(%*) 園数(%**) | | 大阪市 | 園数(%*) 園数(%**) | |
|-------------|----------------|----------|-------------|----------------|----------|
| | 作業有り | 食育と関連性あり | | 作業有り | 食育と関連性あり |
| 1. 田おこし | 4 (9) | 4 (100) | 1. 田おこし | 7 (15) | 6 (86) |
| 2. 種もみまき | 6 (13) | 6 (100) | 2. 種もみまき | 28 (60) | 26 (93) |
| 3. 田植え | 9 (17) | 8 (89) | 3. 田植え | 27 (57) | 25 (93) |
| 4. 田の草取り | 8 (17) | 8 (100) | 4. 田の草取り | 16 (57) | 16 (100) |
| 5. 稲刈り | 10 (21) | 9 (90) | 5. 稲刈り | 31 (34) | 29 (94) |
| 6. 脱穀 | 19 (40) | 9 (47) | 6. 脱穀 | 30 (64) | 8 (27) |
| 7. 米をたいて食べる | 10 (21) | 9 (90) | 7. 米をたいて食べる | 32 (68) | 32 (100) |
| 8. わら細工 | 2 (4) | 2 (100) | 8. わら細工 | 6 (13) | 4 (67) |
| 9. その他 | 1 (2) | 1 (100) | 9. その他 | 3 (6) | 3 (100) |

稲作の作業全体が食育と関連すると回答した園数は10園で、これは全園の21%に相当する。

稲作の作業全体が食育と関連すると回答した園数は32園で、これは全園の44%に相当する。

*：全園に対するその農業を行っている園の割合。

**：その農作業を行っている園に対するその作業が食育と関連すると回答した園の割合。

平成25年度『第2次大阪市食育推進計画に基づく取組事業計画』⁸⁾で「野菜を食べよう」のテーマの基に、栽培体験として四季折々の野菜などを園庭で栽培することで、子どもが成長の過程を喜び、野菜に対する関心・興味を引き出し、また愛着や気付きを経験させることを目的とした取り組みを行っている。さらに菜園活動で採取した野菜などの下処理を子どもが行い、給食調理委員が調理し、提供することを通して、「作って食べる」という体験を積み重ね、野菜を食べることへの意欲、楽しみをはぐくむ取り組みを進めている(菜園調理)⁸⁾。大阪では以上のような法整備により、菜園を使った調理を通しての食育を通して、園内の畑の栽培率や、その他の畑での栽培率が岡山より高い割合となっていると考えられる。

栽培活動は幼児期における重要な体験であり、しかも栽培体験の教育効果は明確なものまでさまざまに提示されている。その一方で、栽培に慣れない教員や菜園業務の忙しさから栽培の失敗や畑の管理面で問題があるとの報告も見られる⁹⁾。しかし、幼稚園や保育所での栽培体験を経験した大学生へのアンケート調査によると、幼稚園や保育所における栽培や料理活動を40%前後が「楽しい思い出」と指摘している(他の内訳は、約60%が覚えていないと回答、いやな思い出との回答は2%~3%に留まる)。つまり、卒園後12年以上経過している学生にとっても体験した食に関する楽しさが、記憶に留まっていたことが報告されている¹⁰⁾。以上の調査結果は、食に関する体験を幼児期に行うことは、食に対するプラスの効果を積極的に対象に及ぼすことを示している。

8. 食育計画表の特徴

食育計画表は各園に任意で提出を求めた結果、岡山では16園より提出された。それらの書類は以下に述べる4つのパターンが見られた。

パターン1：岡山市園長会の食育部会が作成した食育保育計画をそのまま提出した園であり、この例が最も多い。書類には『保育所における食育に関する指針』に沿って、「食を営む力を育み、健康な心と体をもった子どもを育てる」ための指針に沿う5つのねらい(「食と健康」「食と人間関係」「食と文化」「いのちの育ちと食」「料理と食」)毎の目標を提示し

ている。その目標に沿った各年齢の年次計画も作成されている（13園）。

パターン2：これら食育保育計画とは別に岡山市保育所・幼稚園課が献立年間計画を提示し、これをそのまま提出した園もある。この書類には、月目標、ねらい、食に関わる行事、料理例、主な食品、食育、クッキング例、栽培例を提示してある（1園）。

パターン3：「野菜の栽培及びクッキング保育を通して」の書類を作成し、年間の野菜栽培、クッキングの取り組み、食に係る行事などが書いてある（1園）。例を挙げると、2月に植えたジャガイモは6月に園児がおやきにする。1月にねじ干し大根を作り、2月に地域の人たちと豚汁作りなどが書かれている。

パターン4：月毎の指導計画を園独自に作成している。この書類には、月目標、ねらい、行事、予想される子どもの行動、配慮事項、家庭との連携、地域との連携や、子どもの評価もあり、「夏野菜を収穫し、家に持ち帰ったり給食で食べたりし、野菜が以前より食べられるようになっていく」と子どもの変化について触れている。保育指導計画の中に食育を組み込んだ計画書の例である（1園）。

前述のように、岡山の大きな特徴として菜園で収穫された野菜を自宅に持ち帰り、家庭で調理し、その過程のやりとりを園で聞く。また、園で栽培した野菜を通して家庭とのつながりを深めたり、園での取り組みに関心を持ってもらうという、双方向の啓発推進活動を導入している園が少例ながらあることである。以上から岡山では食育は行政主導で行われ、現在各保育所が試行錯誤をしながら食育計画を立てている途中であることが推察される。

対して大阪では、22保育所より計画書が提出された。年間計画書（前述の『保育所における食育に関する指針』における5項目に基づく）において、食育のねらい、行事、菜園活動、食育教材の項目を立て、保護者との連携、献立作成（行事関連、配慮）の観点から、個々の園が独自性を示し、食育計画を作成している特徴がある。さらに『第2次大阪市食育推進計画』⁶⁾に沿った菜園活動を食育計画に組み込んであることも特徴に挙げられる。園によっては両者を兼ねた菜園・食育計画表を作成している場合もある。

年次計画の1つの例として、年齢に合わせて栽培する野菜の種類を変える（プチトマトは2～3歳、オクラ2歳、ジャガイモ・スナップエンドウ4歳、夏野菜全般は5歳などの菜園活動計画表や収穫表を作成している）。あるいは季節毎にその野菜の栽培・調理特性に応じ扱う野菜の種類を変える（稲作の取り組みは5歳児で年間、他に5歳児はトウモロコシやゴーヤの世話や、トウモロコシの皮むきの活動を7月にするなど）。また別園では、エンドウの皮むき、ピーマンの種とり、トウモロコシやタマネギの皮むき、夏野菜収穫、野菜の型抜き、ケーキのトッピング、カレーライス作りなどの菜園調理活動を設定し、年間の献立計画と合わせて保育計画を進めていた。

『保育所保育指針』⁴⁾での保育内容は「健康」、「人間関係」、「環境」、「言葉」及び「表現」の5領域から構成される。特に食育は「環境」の領域と関連しているとされている。「環境」領域の具体的な内容は10項目あるが、そのうち食育は以下の4項目と深く関わっている。①

…（中略）聞く、見る、触れる、嗅ぐ、味わうなどの感覚の働きを豊かにする。⑤季節により自然や人間の生活に変化にあることに気付く。⑥自然などの身近な事象に関心をもち、遊びや生活に取り入れていこうとする。⑦…（中略）作物などを育てたり、味わうなどして、生命の尊さに気付く。

現場での食育は、以上のように複合的に保育内容の領域をまたぎながら、あるいは保護者や地域との連携を深めながら進行しつつあり、これらが園を取り巻く地域を含めた環境にも波及効果もたらす食育となりつつある状況といえる。

まとめ

保育所の給食は、園児にとって初めての集団での食経験の場である。その意味でも保育所での給食は、食に対する基本的な意識や知識の蓄積が計画的に行われる人生の初期段階の最も重要な食育の場と言ってもよい。食を取り巻く現状を見ると、幼児の野菜嫌いは多くの場合見受けられ、これは保護者を最も悩ます問題とされている¹¹⁾。そこで保育所や幼稚園での食育には、幼児が野菜を好き嫌いなく食べることの支援も必要となっている¹²⁾。

本研究では園内の植物（草本・樹木・稲・野菜）に焦点をあてて、保育所で行われている食育にこれらの植物をどのように関連づけながら支援を行っているのか探った。

調査地域としては、中規模都市の岡山市と大規模都市の大阪市を選定し、まず両地域の保育所内に植栽されている植物を活用しての食育の取り組みについて検討を行った。その結果、保育所内に自生している草本や植栽されている樹木を活用しての食育は両調査地域でともに行われていたが、その割合は両調査地域園の1%～23%程度と決して高くはなかった。対して園内外の畑やプランターなどでの野菜の栽培は、岡山で98%、大阪で100%の園が行っており、栽培した野菜を積極的に食育に利用している状況が見られた。食育に利用する野菜の栽培率の高い種類はほぼ共通しているものの、栽培率がさほど高くない野菜については両地域における特性がみられた。

食育の取り組みについて両地域で差が見られたのは、大阪では食育が園内での保育カリキュラムの中に位置づけられているのに対して、岡山での位置づけは個々の保育所の裁量に任されているためと考えられた。

地域毎の差は見られたものの、菜園活動とそこで収穫された野菜の調理準備の手伝い、調理などを通して、あらゆる機会とあらゆる場所を利用して、積極的に園児が実際に活動する場を提供しながら、同時に園の独自性も出しながら、食育の導入に努めている実態が明らかになった。また一部の園では、園での収穫作物を利用して園と家庭が連携をしながら保護者を巻き込んだ食育の波及効果を狙った取組みを行っていた。

謝辞

アンケートにご協力頂きました岡山市と大阪市の保育所の皆様に感謝申し上げます。

引用文献

- 1) 内閣府, 食育基本法 (2005)
- 2) 内閣府, 食育推進計画 (2011)
- 3) 厚生労働省, 保育所における食育に関する指針 (2004)
<http://www.mhlw.go.jp/shingi/2007/06/dl/s0604-2k.pdf>
- 4) 厚生労働省, 保育所保育指針 (2008)
- 5) 大阪市, 大阪市食育推進計画 (2008)
<http://www.city.osaka.lg.jp/kenko/cmsfiles/contents/0000018/18671/keikaku1.pdf>
- 6) 大阪市, 第2次大阪市食育推進計画, p16 (2013)
<http://www.city.osaka.lg.jp/kenko/cmsfiles/contents/0000213/213214/0328.pdf>
- 7) 岡山市, 第2次食育推進計画, p25-27 (2013)
<http://www.city.okayama.jp/contents/000043575.pdf>
- 8) 大阪市健康局, 平成25年度第2次大阪市食育推進計画に基づく取組事業報告, (2013)
<http://www.city.osaka.lg.jp/kenko/cmsfiles/contents/0000213/213214/0611.pdf>
- 9) 古郡曜子, 小田進一, 食育としての栽培活動における課題, 北海道文教大学研究紀要, 37,31-137 (2013)
- 10) 古郡曜子, 菊池和美, 保育所・幼稚園における食の思い出調査 家庭でのしつけとの関連をふまえて, 日本調理科学会誌, 42(6), 410-416 (2009)
- 11) 綾部園子, 小西史子, 大塚恵美子, 朝食からみた幼児の食生活と保護者の食事意識, 日本栄養誌, 63,273-283 (2005)
- 12) 寺岡千恵子, 奥本正, 保育所給食における野菜の活用状況・調理法の検討, 日本家政誌, 60(6), 561-568 (2009)